



自分からつくり出していくもの

校長 佐久間 郁子

明けまして、おめでとうございます。昨年は、当校の教育活動にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございました。今年はお正月らしい時間を過ごすことができてよかったと思いましたが、やはり一日は、1年前に起きた地震の時刻が近付くにつれて、もうあのような経験はしたくない、蛇口をひねれば水が出てくる当たり前に感謝しなければいけないと思い起していました。山田小学校職員一同、本年も子どもたちのために精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、昨年のことになりますが、11月29日(金)に児童会行事「山田っ子祭り」を行いました。この活動では、多くの感動の場があります。毎年行っているのですが、一つとして同じアトラクションはありません。3年生以上は、これまでの「山田っ子祭り」で経験したことや、学校生活以外での経験を基にしてアトラクションの内容を一から考えて話し合っていきます。どうしたら多くの人に来てくれるかなとか、どんな内容だと来た人が楽しいと感じてくれるかなと思いを巡らせている子どもたちの表情は、より喜々としています。また、当日、アトラクションまでの待ち時間も、効率よくかつ楽しく過ごせるようにと、係の子が待ちスペースに椅子を並べてルール説明したり、クイズを出したりしています。待っている多くの人に聞こえるよう普段より大きな声で話しています。こうした相手を気遣い、気を張って頑張っている子どもたちの姿に感動します。「自分でやること、人にやってもらうのではない。そこには喜びの一番深い意味がある」、これは、アランの『幸福論』に書かれた名言です。話合いや準備が大変な中でも、楽しみを自らつくり出している「山田っ子祭り」当日までの姿と当日の姿から、そんな言葉が思い浮かびました。

これから始まる後期後半の三か月は、今年度の締めくくりや次の各年に向けた準備を行う大切な期間です。子ども一人一人が「自分がなりたい姿」を目標として明確にもち、目標達成に向けた準備と努力を積み重ねていくことを願っています。成長する子どもたちの姿が楽しみです。